

ProfileXT 複数指標ディクショナリー

PXT のスコアは、一つ一つの指標理解を出発点としつつ、複数の指標で表現される人物像の読み解き方を身に付けることで、より深い個々の特性理解につながります。以下に示される複数指標によって導かれる人物像パターンを理解し、ビジネス現場での人材マネジメントや育成にお役立てください。

-目次-

PXT スコア/行動特性の全体的な傾向の捉え方

PXT テクニカルマニュアルで有意な相関が確認されているもの

- ① エネルギーと決断性
- ② 主張性と決断性
- ③ 組織従順性と態度
- ④ 組織従順性と独立性

上記以外で典型的な 2 つの指標の組み合わせ例とその読み解き方

- ⑤ 主張性と協調性
- ⑥ 主張性と社交性
- ⑦ 決断性と判断の客観性

思考スタイル/行動特性/仕事への興味の代表的な組み合わせ

アナリティカルな人材
イノベティブな人材

・ PXT スコア/行動特性の全体的な傾向の捉え方

人間のパーソナリティを測定する行動特性は 9 つの指標で表現される情報ですが、まずその人材の全体傾向を捉えるために、大まかに以下のように分類すると見立てがスムーズになります。すべての指標が以下の分類に当てはまるわけではありませんが、全体像をつかむための目安として活用ください。

左寄り



「じぶんで、ひとりで」
受信型

中央寄り



状況毎に使い分け
バランス型

右寄り



「みんなと、いっしょに」
発信型

当然、すべてのスコアがどちらかに偏ったり、真ん中のみを集まったりしていることばかりではありませんが、上記のようなシンプルな分類から、その人物の特徴を素早くとらえることが可能になります。なお、**中央 4-7 のスコアに 9 つの行動特性全てが収まる人材は 3%以下の出現率となります**。そのようなスコアの持ち主にはそのユニーク性をお伝えすることも効果的です。

・ PXT テクニカルマニュアルで有意な相関が確認されているもの

以下に紹介する 2 指標の行動特性の組み合わせは、PXT テクニカルマニュアルにおいて、統計上一定の相関が出ている（例：一方が右寄り（左寄り）だと他方も右寄り（左寄り）という正の相関と、その逆にあたる負の相関）、つまり組み合わせとして比較的出現しやすいものをまとめています。典型的なケースとして押さえていただくことで、典型例とそれ以外のケースを見分けることが可能になります。

相関係数の考え方について

1を最大として、数値が大きい方が相関が高いことを意味します。

正の相関 一方が高いと他方も高い	• 0.7 ~ 1.0 かなり強い正の相関がある
	• 0.4 ~ 0.7 正の相関がある
	• 0.2 ~ 0.4 弱い正の相関がある
負の相関 一方が高いと他方が低い	• -2 ~ 0 ~ 0.2 ほとんど相関がない
	• -4 ~ -2 弱い負の相関がある
	• -7 ~ -4 負の相関がある
	• -10 ~ -7 かなり強い負の相関がある

① エネルギーと決断性(相関係数 0.805)

以下が、2つの指標の掛け合わせで表現される人物像です。



エネルギーと決断性

左寄りの場合

ゆっくりとしたペースを保ち着実な仕事を行う。意思決定においても、思い切った行動は好まず慎重を期す。

右寄りの場合

切迫感をもち早いペースで仕事を行い、活発で生産的であることを好む。したがって、衝動に基づいて行動し、決断をリスクを取ってスピーディーに行う。

上記にあらず、エネルギーが右寄り、決断性が左寄りの場合、行動は早いものの、迅速に決断することを妨げるような些細な事柄にとらわれるかもしれません。エネルギーが左寄り、決断性が右寄りの場合、意思決定は簡単に行っても、切迫感は示さないかもしれません。

② 主張性と決断性 (相関係数 0.708)

以下が、2つの指標の掛け合わせで表現される人物像です。



主張性と決断性

左寄りの場合

他者に主導してもらい、それに従う事を好む。物事の判断も主体的に行うことは居心地が悪く、慎重になる傾向にある。

右寄りの場合

自分の立場を主張し、意見を自ら発信することを自然に行うため、意思決定もリスクを引き受けて大胆にとる傾向にある。

上記にあらず、主張性が右寄り、決断性が左寄りの場合、他の人たちに影響を及ぼすことの方に興味を示し地位にこだわる行動をする代わりに、敏速な行動はとらないかもしれません。主張性が左寄り、決断性が右寄りの場合、強い主張で人を納得させるというタイプではなく、より注意深い方法が求められている状況ですら性急な行動に走るかもしれません。

③ 組織従順性と態度（相関係数 0.676）

以下が、2つの指標の掛け合わせで表現される人物像です。



組織従順性と態度

左寄りの場合

組織のルールや手順からの制約を避けようとする傾向と、他の人の意図や行動を額面通りに受け止めない傾向に一貫性ある人物像が表現される。

右寄りの場合

権威や権限を認めてルールに対して従順に行動する傾向と、他の人たちを信頼し、その意図を疑わない傾向に一貫性ある人物像が表現される。

上記にあらず、態度が右寄り、組織従順性が左寄りの場合、その人が極めて他の人たちを信用しているながら、物事に従わないことを意味します。言い換えると、自由な発想を好み、将来に対する楽観的な展望を描きたい創造性の高い特性と言えるでしょう。また、態度が左寄り、組織従順性が右寄りの場合、ルールに従順でありつつ、物事のリスクを見ようとするため、順守すべき仕組みの中で確かなリスクヘッジを行うことに適した特性と言えるでしょう。

④ 組織従順性と独立性

以下が、2つの指標の掛け合わせで表現される人物像です。

組織従順性と独立性（負の相関）

緑の組み合わせの場合

ルールに縛られず、指示監督を求めない
この傾向は、自主的で自分の選択した
手段で目標を達成することに意欲を示す。

青の組み合わせの場合

ルールを順守し、指示監督を受け入れる
この傾向は、自分の目標達成のためにき
ちんとしたガイドを求める。

ラーニング指標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
言語スキル	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
言語的推理	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
計算能力	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
数的推理	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
思考スタイル										
エネルギー	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
主張性	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
社交性	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
組織従順性	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
態度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
決断性	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
協調性	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
独立性	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
判断の客観性	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
行動特性										
事業開発	研究・分析									
財務・事務管理	機械・作業	仕事への興味								
人的サービス	クリエイティブ									

上記にあらず、組織従順性も独立性も右寄りである場合、組織のルールには従いつつも、人からの管理監督は最小限とし、組織の方針に融和しながらも自らの方向を定めることを好むでしょう。一方、いずれも左寄りである場合、管理者からのきちんとした仕事の指示を必要とするものの、ガイドがあまりに統制的で厳格すぎることを好まないため、ルールで支配しようとする、しかし仕事ぶりを評価される職場環境を好むでしょう。

・上記以外で典型的な 2 つの指標の組み合わせ例とその読み解き方

上記の統計的なケースの他に着眼すべき 2 つの指標の組み合わせ例と解釈についてまとめています。

⑤ 主張性と協調性

以下が、2 つの指標の掛け合わせで表現される人物像です。



主張性と協調性

緑の組み合わせの場合

他者に主導してもらい、それに従う事を好むため、他者と衝突をしてまで自分を貫くより調和を図ることを重視する。

青の組み合わせの場合

自分の立場を主張し、意見を自ら発信することを好むため、周囲との協調よりも、衝突したとしても自分の信念を貫く。

上記にあらず、いずれのスコアも左寄りの場合、主張はしないが、周囲にも迎合せず自分を貫く特性を表します。一見見た目にはわかりにくいのがこのスコアを持つ人物像の特性です。静かに内に秘めている考えやこだわりを有します。一方、いずれのスコアも右寄りの場合、主張はするが、相手と対立せずに調和をしながら意見を通せるこの指標は、交渉上手なグッドネゴシエーターの特性という事が出来ます。

⑥ 主張性と社交性

以下が、2 つの指標の掛け合わせで表現される人物像です。

主張性と社交性

左寄りの場合

他者に主導してもらい、それに従う事を好むため、人との社交関係においても受動的な傾向を示す

右寄りの場合

自分の立場を主張し、意見を自ら発信することを好むため、人との社交関係においても積極的に関係構築しようとする



上記 2 つの指標を合わせて「影響力の尺度」と呼んでいます。またエネルギーの指標とあわせて 3 つが右寄りに出ると、見た目にもわかりやすいハイペースで主張が強く、社交的な人物となります。これが出過ぎると相手に威圧感を与え得ることには注意が必要です。

右寄りの主張性、左寄りの社交性の場合、主導はしていくが、人との接点を特段必要としないため、人志向よりもタスク志向、成果重視の人物像が浮かび上がります。一方、左寄りの主張性、右寄りの社交性の場合、人との接点は好むが、主張をしたり周囲をコントロールしたいわけではないため、温和で人付き合いの好きな人物像が想像されます。

⑦ 決断性と判断の客観性

以下が、2 つの指標の掛け合わせで表現される人物像です。



決断性と判断の客観性

相関性ではなく、意思決定の2つの指標として、スコアバランスで傾向を捉える

緑の組み合わせの場合

即断即決を行うが、意思決定は予感直感を重視する感覚行動タイプ

右寄りの場合

リスクを取らない意思決定を信条とし、判断の根拠も事実や客観情報に基づく、慎重行動タイプ

両方のスコアが右寄りの場合、意思決定はスピーディーだが、判断の際にはロジックを重視した確実性をよりどころにする、行動派かつロジカルな人物像が浮かび上がります。

・思考スタイル/行動特性/仕事への興味の代表的な組み合わせ

以下は、行動特性のみならず 3 領域全てのスコアから見出すことが出来る人物傾向の代表的な例となります。

アナリティカルな人材

複数の指標から表現される人物像(アナリティカルな人材)



数的推理と態度と判断の客観性と研究・分析

左寄りの態度と右寄りの判断の客観性は、リスクにアンテナが高く、データや事実情報を判断のよりどころとします。

さらに右寄りの数的推理と、研究・分析の興味が加わることで、数値データを駆使した高度な問題解決力と、深いレベルで物事を追求し掘り下げていく事に没頭できる興味が重なり、分析に長けた人物特性が浮かび上がります。



イノベティブな人材

複数の指標から表現される人物像(創造性ある人材)



言語的推理と数的推理、組織従順性と態度、事業開発とクリエイティブ

右寄りの言語的推理と数的推理を持つ人材は、言語や数字を巧みに用いた推察力に長け、先を見通すことを得意とします。

左寄りの組織従順性と右寄りの態度は、既存の枠組みを疑い自由な発想を持ち、楽観的に未来を展望できる特性です。

さらに、事業開発、クリエイティブの興味が加わることで、新しいものを創造し、それを発信していく事に没頭できる興味のため、イノベティブな人物特性を表現している組み合わせといえます。

